

岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七年 貝原益軒書 —

第 26 号

平成 10 年 11 月 吉日
 発行 岡田宮社務所
 北九州市八幡西区岡田町 1 番 1 号
 郵便番号 806-0033
 電話 (093) 621-1898
 FAX (093) 621-5330

明治天皇御製

ちはやぶる神のまもりによりてこそ
 わが葦原あしはらの国はやすけれ

神祭りの始まり

全国で何千万という人々が神社に出かける初詣。受験シーズンともなれば、天神さまをはじめ氏神さまに大勢の人が合格を祈願します。七五三詣や初宮詣も盛んですし、商売繁盛、病氣平癒、交通安全などの祈願も定着しています。

「はじめに」で述べたように、その理由を一言でいえば、多くの日本人はその生活の中で、神々とたいへん密接であること、そしてそうした神々への信頼が無意識の世界に根ざしているからなのでしょう。

それはなぜでしょうか。このような神さまへの信頼がいつごろから生まれたのか、古い時代にさかのぼって考えてみましょう。

今から一万年数千年前に氷河時代（地質学上では洪積世）が徐々に終わりを告げ、地球上の気温が上昇しました。それまで北は樺太（サハ

リン）、西は朝鮮半島と陸続きであったわが日本列島も、海面が上がってアジア大陸から完全に分離しました。それがおよそ一万年前で、このころから新石器時代と呼ばれます。氷河時代の旧石器時代と異なり、石を磨く技術が生まれて磨製石器などがみられるようになり、同時に土器が作られるようになります。この一万年ほど前から紀元前三百年ころまでを縄文時代というのは周知のとおりです。

縄文時代の人々の生活は、狩猟や漁労、あるいは自然物の採集が主で、それらに適した土地に移住しながら生計を営んでいたのです。

自然の条件に左右されることの多い生活は、現代の私たちと比べると想像を絶した不安定な毎日であったでしょう。そのため、自然現象に靈の存在を認めて畏怖し、呪術によって災いを避け、自然の恩恵を祈る風習があったことは充分考えられることとすし、そうした祭祀遺跡も各地に残っています。女性や動物をかた

どった土偶も、その表れでしょう。この自然崇拜の風習を神祭りの始まりと呼ぶかどうかは議論がありますが、現代に続く神祭り姿がみられるようになったのは、一般に稲作農耕が日本の各地で行われるようになった次の弥生時代と考えられています。

稲作農耕が日本列島に伝わってきたのは、紀元前四正規の晩期縄文時代、北九州の地でした。その後稲作は急速に日本列島に広まり、弥生時代（紀元前三〇〇年〜紀元後三〇〇年）のころには、日本列島の北端、今の青森県で、稲が作られるようになったといわれています。

「神祭りとは何か」という問に対するもっとも簡明な答えは、「神さまへのご奉仕」、また「神さまに対するおもてなし」といえます。そして神さまをおもてなしする際のもっとも重要なことは、神さまに何をお供えするかということです。そこで、祭りに関する古い文献や、全国の八万にも及ぶ神社のご神饌（お供え）を眺めてみる

と、もっとも大事なものがお米、その次がお神酒やお餅です。いうまでもなく、お神酒もお餅も米からできています。また祭りをみても春祭や秋祭のように、稲作儀礼が基本になっています。こうしたことをみても、神道のはじまりは、稲作とともに起こり、稲作文化とともに発展したといってもよいでしょう。



神奈川県鶴ヶ岡八幡宮の初詣風景

岡田宮えびす祭



今年も十二月三日の午後六時三十分より家内安全、商売繁昌の神様である、えびす様の御座が執り行われます。

地元商店街有志の方々より、ステキな景品が奉納されますので、奮ってご参拝下さい。

日時 十二月三日

午後六時 開場
午後六時半 神事
午後七時 福引

御座券は一枚三、〇〇〇円です。岡田宮社務所で頒布しています。

郷土地名考 ②6

夕原町 (ゆうばる)

地名の碩学である行橋の定村實二氏から聞いた話。

「ほうこつ」という変な地名の語源を調べていると古文書に「體」とあった。もとは「空田」(からだ)を当て字にしたのである。その體を「豊骨」につくり変えて「ほうこつ」になった

という次第。地名探索にはこうした事例が多い。

夕原 (ゆうばる) もこの例。昔は奥海海の堀川沿いにあった水田地帯だが、元禄年間、干潟を埋め立ててできた原だから「潟原」(せきはる)、それを略して同音の夕をあて「夕原」としたが書き間違えて「勺原」(しゃくばる)とも呼ばれた。復活した夕原は今度は字訓に従って「ゆうばる」になったという説

明。

今はかつて水田地帯の面影はさっぱり消え、清掃工場や中小工場の工業団地になった。ここを通り抜けるときいやな臭いがするから、車のエアコンは外気導入はしない方がいい。

本城 (ほんじょう)

義経が屋島・壇の浦の海戦を戦っている間に、源頼朝は陸路を西下、一一八五年(文治一)、赤間ヶ関から九州に渡り平家滅亡の先鞭をつけた。そのとき本陣をおいたのがこの地で本城。平家に味方する香月庄司と戦った戦場が陣の原。

壇の浦の合戦のあとも、頼朝は九州経営にとどまったが、鎌倉に帰ってからは義経を追っかけまわす頼朝に気を使っていたものの、曾我兄弟の仇討ちについて北条政子をなだめたことが災いとなり頼朝に殺されてしまった。

付近には古代、中世の遺跡群が発見されているが、本城中学校北遺跡にならんで、力丸遺跡、蛭子谷遺跡、的場遺跡など城跡地名も少なくない。いまは鉄工団地と住宅団地造成で、古戦場の面影はまったく消えた。



心

尊重

わたしには私に限る使命がある
私に私を尊重する
あなたにはあなたに限る使命がある
それだから私はあなたを尊重する
万人に皆それぞれ使命がある
それだから私はたれでも尊重する

学識

おお 無学の悲哀よ
海綿のような空虚な頭脳よ
浅薄な学識から割り出す浅薄な見識
堂々と大きな声で言われるものが恥ずかしい
穴の中にかくれたいほど恥ずかしい
「学ぶに如かざるなり」
だまって死ぬまで勉強しよう

神社 なぜ 問答

(その26)



Q 神社の参道で見かける狛犬について教へて下さい。また、狐や牛の場合もあります、なぜでしょうか。

A 神社にお参りすると参道の両脇に一对で置かれた石造の狛犬を見かけます。神社境内のことを語るとき、鳥居と並んでまず思い浮かべるほど、狛犬は神社にとって一般的なものとなっています。

普段、私たちは石造のものを多く目にしますが、この他に、社殿内に置かれる木造や陶製のもの、金属製のものなどがあります。狛犬は高麗



犬の意味で、獅子とともに一对になって置かれているとする説もあり、その起源も名称が示すように渡来信仰に基づくもので、邪気を祓う意味があると言われています。

神社にあるのが一般的ですが、寺院でも稀に置かれることがあり、東大寺南大門のものが石造としては我が国最古のものとされています。また、宮中では几帳(きちょう)の裾に置く重石(おもし)として木造の狛犬を用いていたようです。

神社によっては狛犬ではなく、狐や牛などの場合もあります。狐は稲荷神社、牛は大満宮に見られ、共にお祀りされている神様の神使(お使い)であるとされています。

狛犬の表情は神社、あるいは地域によって実に多様です。各地の神社を訪れた際に、いろいろな表情をした狛犬を眺めることもお参りする楽しみの一つになるのではないのでしょうか。



編集部より 神社や神道のことについて、御質問をお寄せ下さい。

御質問は一目目とし、五十文字以内でお願いします。神社本庁教学研究所の協力でお答えします。

質問者名は出しませんが、お名前、連絡先をお忘れなく。

岡田宮と厄除

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、「人生の折り返し目」だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りのある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。

それが「厄ばらい」です。

厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをうけましょう。

北九州の古社である岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。

皆様方おそろいで御参拝下さいませ。御案内申し上げます。

平成十一年の厄年

厄年(男)

二十四才 前厄 昭和五十一年生
二十五才 大厄 五十年生
二十六才 後厄 四十九年生

四十一才 前厄 三十四年生
四十二才 大厄 三十三年生
四十三才 後厄 三十二年生

六十才 前厄 十五年生
六十一才 大厄 十四年生
六十二才 後厄 十三年生

厄年(女)

十八才 前厄 昭和五十七年生
十九才 大厄 五十六年生
二十才 後厄 五十五年生

三十二才 前厄 四十三年生
三十三才 大厄 四十二年生
三十四才 後厄 四十一年生

三十六才 前厄 三十九年生
三十七才 大厄 三十八年生
三十八才 後厄 三十七年生

※年齢はかぞえ年です。

● 厄年大祭 二月節分日

年末年始の行事案内

●大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を払い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。



形代(表) かしら

●歳旦祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願ひする神事。午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。

●開運福引き 一月一日〜三日

一枚五百円でハズレなし。二等は自転車、羽毛ぶとんなどが当たります。新年の運だめしにどうぞ。

●昨年の一等 (敬称略)

- 八幡東区祇園原町 中村 稔
- 若松区青葉台西 猪原清典
- 下関市 匿名
- 八幡西区上の原 藤田康成

●特別祈願祭 一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

●成人奉告祭 一月十五日

新成人のお祓いをします。

●どんどん焼祭 一月十五日

古くなった縄、門松等を焼納する神事。

地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

平成十一年 算賀の年祝

日本国には古い時代から人の寿命を加へゆく年の区切り区切りを慶び祝う風習があります。

この祝いを年賀とも算賀ともいいます。どうぞご家族そろって岡田宮にご参拝され、今までの無事息災を神様に感謝すると共に更に向後の長寿安泰をお祈り下さい。

※日取は誕生日又は早めにされて下さい。

還暦 六十一才	昭和 十四年生
古希 七十才	昭和 五年生
喜寿 七十七才	大正 十二年生
傘寿 八十才	大正 九年生
米寿 八十八才	明治四十五年生
卒寿 九十才	明治 四十三年生
白寿 九十九才	明治三十四年生

※年輪はかぞえ年です。

楽しい雰囲気・明るいスタジオ

(株) 有川 写真館

岡田宮内にスタジオ完備
宮参り、七五三など
撮影時、衣裳無料でお貸ししています。

☎ 0120~62~2080

写真館



北九州プリンスホテル ベベ2F
インドアブル前にオープン

各種衣裳取りそろえております。
☎ 0120~620~753